

学習指導要領解説における「健康」の扱い

－中学校社会科、高等学校地理歴史科、公民科を例に－

The Treatment of “Health” in the Explanation of Learning Guidelines

- Examples from Junior High School Social Studies,

High School Geography and History, and Civic Education -

坂 倉 剛

Go Sakakura

Learning related to health is typically conducted in subjects such as physical education and home economics. However, there are instances where topics related to health are also addressed in subjects like social studies, geography and history, and civic education. In the midst of changing societal environments and with the aim of fostering healthy people, the new curriculum guidelines have been implemented in junior high schools since 2021 and in high schools since 2022. This paper summarizes the differences in the treatment of health through a comparison of the explanations between the old curriculum guidelines and the new curriculum guidelines in subjects such as junior high school social studies, high school geography and history, and civic education.

はじめに

学習指導要領は、直近の社会動向や社会的要請に基づいて内容が改訂される。平成30年以降に施行された学習指導要領に先立って公開された中央教育審議会答申を見ると、「子供の健康に関しては、性や薬物等に関する情報の入手が容易になるなど、子供たちを取り巻く環境が大きく変化している。また、食を取り巻く社会環境の変化により、栄養摂取の偏りや朝食欠食といった食習慣の乱れ等に起因する肥満や生活習慣病、食物アレルギー等の健康課題が見られる。」¹⁾と記述がある。

例えば、薬物に関する近年の傾向を見てみると、大麻取締法違反で検挙された少年の人数は、平成25年以降に増加傾向にある²⁾。検挙人数が増加していることは、薬物の利用が広まっている事実を示すものであり、教育現場から薬物への警鐘を鳴らすことを求められる。

次いで、栄養摂取の偏りについては、東京都内の調査によると生活困窮層の野菜摂取が1日1回未満である16-17歳の子どもの割合が2割以上を占めており、一般層でも1割程度を占めている³⁾。このように、子どもたちの栄養摂取の偏りが一部ながらもあることが可視化された。また、朝食欠食についてみると、令和3年度では小学生のうち1割程度、中学生のうち2割程

度で1週間につき1日以上朝食の欠食があると回答している⁴⁾。そして同年に行われた「学校保健統計」では、男子について着目すると小学4年生から高校生にかけて1割程度の肥満児が見られたという調査結果が出ている⁵⁾。

このような状況から、児童生徒らに健康に関する教育、指導を進めてゆく必要性が認められる。

1. 教育と健康

教育基本法の第1条は、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない」と示されている。このことから、学校で健康に関する知識の定着や意識の向上を図ることが求められていると言える。これは学習指導要領総則にも反映されており、例えば、高等学校については以下のような記述がある⁶⁾。

学校における体育・健康に関する指導を、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科、家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科・科目及び総合的な探究の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮すること。

健康について取り上げる科目としては、保健体育科や家庭科が挙げられる。しかし、保健は高等学校では2単位が標準単位数であり、中学校では「3学年間で48単位時間程度配当すること」⁷⁾のため「雨降り保健」と称されるように、限られたなかで実施されている。高等学校の家庭科では、家庭基礎か家庭総合が必修科目であるが、家庭基礎のみの履修では2単位が標準単位数のため、そのなかで健康を取り扱うことが求められる。しかし、他の教科においても健康は扱われており、その例として社会科、地理歴史科、公民科があると言える。

2. 本稿の研究手法

まず、2013年から2022年までの先行研究の文献調査をCiNiiで行った。検索ワードは、「社会科 健康 学習指導要領」、「地理歴史科 健康 学習指導要領」、「公民科 健康 学習指導要領」とした。その結果、國原が新型コロナウイルス感染症を事例に大学生の教職科目の中で学

習指導案を作成させた実践を紹介していた⁸⁾。しかし、いずれの検索時においても、社会科、地理歴史科、公民科の学習指導要領解説そのものと健康を取り上げていた学術誌に掲載されていた論文は検出しなかった。

そのため以下では、社会科・地理歴史科・公民科を事例に、健康の扱われ方について現在の各学校で用いられている令和3年度以降に全面施行された中学校、高等学校の学習指導要領解説(以下、新学習指導要領解説とする)と平成20年度以降に全面施行された中学校、高等学校の学習指導要領解説(以下、旧学習指導要領解説とする)を手掛かりに探索的に調査した。

健康について取り上げることとするが、健康に関連する語というものは数多ある。そこで以下の健康に関するキーワードを用いることとする。まずは基本的な用語として「健康」を取り上げるほかに、「医療」、「栄養」、「感染症」を含めることとする。「医療」は、健康を支える保険制度やサービスである点から、含める語とする。そして「栄養」については、先に挙げたように児童生徒らの栄養摂取の状況に関して問題となっているため注目した。そして、「感染症」をキーワードに含める。歴史上、人類は幾度となく感染症に苛まれてきており、今後もその流行下になることも十二分に予想できることである。また、感染症に限らず幅広く疾病や病気を示す「病」もまた、健康に繋がる字である。感染症や医療と関連する字ではあるが、採択することにする。以上のような観点から、「健康」、「医療」、「栄養」、「感染症」の語、「病」の字が出る語の学習指導要領解説上の扱いについて取り上げる。なお、学習指導要領解説内にある学習指導要領本文の引用と参考資料の部分は除外した。

3. 新学習指導要領における健康

3-1. 中学校社会科における健康

中学校社会科における健康に関する語等は、表1のように、公民的分野でのみ表出されていた。まず、「健康」という語は大項目B「私たちの経済」のなかで公害の防止や環境保全を扱う内容として現れている。健康そのものを直接扱うのではなく、諸問題を抱えるなかでも健康に生活し続けることを、憲法の面も含めて記載している。また、「医療」についても公民的分野のなかにあり、大項目Aの「私たちと現代社会」にてその記述が現れる。医療の扱いは、社会保障の一部を構成するものとして取り上げている。

以上の通りに、「健康」、「医療」に関しては中学校社会科で取り上げられたが、一方で「栄養」、「感染症」、疾病や病気を示す意味での「病」の各語の利用は見られなかった。

表 1 新学習指導要領解説の中学校社会科での健康に関する記述⁹⁾(筆者作成)

	健 康
公民的分野	公害の防止など環境の保全…の意義を理解することについては、地理的分野及び歴史的分野の学習との関連を考慮しながら、個人の生活や産業の発展などに伴う公害など環境汚染や自然破壊の問題について理解できるようにすることを意味している。そして、現在及び将来の国民の健康で文化的な生活の確保に寄与するとともに人類の福祉に貢献するという視点に立って、環境を保全し、積極的に人間環境の改善を図るようにすることの重要性について理解できるようにすること、さらに、これらの問題の解決を図るためには、環境保全対策が国や地方公共団体の重要な課題であり、これまで様々な取組がなされてきたこと、我々の生活の在り方を見直し個人や企業が責任ある行動をとるようにする必要があることを理解できるようにすることを意味している。(p.147-148)
	栄 養
	該当なし
	医 療
公民的分野	家族や家族が生活する場としての家庭、学校や地域社会など日常の社会生活と関わりの深い具体的事例を取り上げ、現代社会の特色を理解できるようにすることが大切である。例えば、我が国が人口減少社会を迎えて、家族との生活、学校や地域社会での生活が変容してきていることや、労働力需給や経済成長など国民経済に大きな影響が出ていること、また、医療や年金など社会保障費の財政負担が増大し、財政の状況が悪化していることを理解できるようにすることなどが考えられる。(p.136)
	感染症
	該当なし
	病
	該当なし

3-2. 高等学校地理歴史科における健康

高等学校地理歴史科における健康に関する語等は、表2のように、地理総合、歴史総合、世界史探究にて表出されていた。「栄養」は、地理総合で大項目B「国際理解と国際協力」の内の「地球的課題と国際協力」にある。その例として国際的な問題の一つとして食料問題があり、そのなかに主題として栄養失調の人々を提示している。

また、「医療」については大項目Eにある「地球世界の課題」のなかにある「科学技術の高度化と知識基盤社会」にてくるものである。ここでは、生命倫理に関してはあるが、世界史探究で扱われている。世界史探究では、第二次世界大戦後の現代史に該当する範囲において、科学技術の高度化に伴う諸問題として挙げられている。

そして、「感染症」については、地理探究と歴史総合で表れる。地理探究では大項目A「現代世界の系統地理的考察」のうち、「自然環境」に感染症に言及がある。ここでは、地球規模の問題である温暖化の影響として記載している。一方で、歴史総合では「グローバル化と私たち」のなかで、「グローバル化への問い」として感染症を挙げている。第二次世界大戦後から現代に至るまでの歴史を見る視点の一つとして、感染症があることを示している。

「病」については、地理総合において「病院」として出てきたものが該当する。地理総合のなかの大項目C「持続可能な地域づくりと私たち」のなかにある「自然災害と防災」にて学習活動の

例として挙げられている。地図上の情報から地域的特性を考えるなかで施設の分布などを考えられるようにして、あるべき姿について討議することを目指している。歴史総合においても「病」が登場するが、先述した通りであるため省略する。

以上のように、「栄養」、「医療」、「感染症」、「病」については検出されたが、「健康」の語については見られなかった。

表2 新学習指導要領解説の高等学校地理歴史科での健康に関する記述¹⁰⁾(筆者作成)

	健 康
	該当なし
	栄 養
地理総合	<p>主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現するについては、「食料問題」を事例とすると、ここで取り上げる主題として「食料問題とその解決の方向性」などが考えられる。例えば、この主題を基に、まず、「世界の人々の食生活の変化により、世界の農業はどのように変化しているだろうか」といった問いを立てて、世界の農業を取り巻く状況をおおまかに捉えたとともに、「世界各国の食料生産と食料消費にはどのような傾向性があるだろうか」といった問いを立てて、世界の食料の需給には不均衡があることなどを捉え、食料問題の現状について考察する。次に、「世界には飽食を可能とする人々がいる一方で、なぜ飢餓や栄養不足に悩む人々がいるのだろうか」といった問いを立てて、各国の国内状況や国家間の関係について、歴史的背景を踏まえて経済的な側面や地理的環境の側面などから捉え、食料問題の要因について考察する。(p.58)</p>
	医 療
世界史探究	<p>医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理については、医療の量的拡大や質的向上の変遷、遺伝子操作等のバイオテクノロジーの展開やバイオテクノロジーを利用した緑の革命が世界経済に与えた影響などについて扱う。また、医療技術の発達と世界諸地域の平均寿命との関連、医療技術・バイオテクノロジーの進展に関わる生命倫理を巡る問題などについて扱う。(p.339)</p> <p>上記の原子力の利用や宇宙探査などの科学技術、医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理、人工知能と労働の在り方の変容、情報通信技術の発達と知識の普及の学習については、中項目の主題を基にした学習上の課題(中項目全体に関わる問い)を踏まえ、中項目のねらいに則した学習を展開することが大切である。そのため、推移や展開を考察するための課題(問い)を設定し、さらに事象を比較し関連付けて考察するための課題(問い)を設定するなど、事象それぞれの学習の際に、段階的に課題(問い)を設定することが求められる。(p.340)</p>
	感染症
地理探究	<p>「気候」と「生態系」を関連付けて事例とすると、ここで取り上げる主題として「気候変動と生態系」などが考えられる。例えば、「熱帯におけるサンゴ礁の白化がなぜ起きているのだろうか。温帯において熱帯性の海洋生物の繁殖やデング熱などの熱帯性の感染症が報告されるようになったのはなぜなのだろうか」といった問いを立てて、地球規模の気候変動や温暖化と地域で起きている現象の関係を考察するような学習活動が考えられる。(p.87)</p>
歴史総合	<p>感染症を取り上げた場合には、例えば、教師が、伝染病感染者数などに関する統計や主題図、感染の拡大防止に向けた国際協力に関する資料などを提示し、20世紀の感染症被害が大規模となった理由や感染症の広がりに対する国際社会の対応など、生徒が歴史的な見方・考え方を働かせて資料から情報を読み取ることができるように指導を工夫する。生徒は、それらの情報を読み取ったりまとめたりしながら、感染症の拡大の背景と生活や社会の変容との関連性について考察する。(p.172)</p> <p>その際、冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料については、複数の資料を組み合わせさせて関連付けたり、一つの内容であっても視点の異なる複数の資料を比較したりするなど、豊富な資料を教材として、生徒がそれらの情報を読み取ったりまとめたりすることにより、グローバル化に伴う生活や社会の変容についての考察を深め、自分自身の問いを表現できるようにすることが必要である。(p.173)</p>

	病
地理総合	複数の地図から読み取った情報を関連付けて、地域の特徴をまとめる地理的技能を生かし、洪水や地震、土砂災害など、複数のハザードマップを基に、予想される災害の特徴によって地域区分した地図を新たに作成する。例えば、洪水の際に浸水被害を受けやすい低地、地震の際に家屋の倒壊などが想定される住宅密集地、豪雨の際に土砂災害が予想される傾斜地などといった区分が考えられる。次に、「区分したそれぞれの地域では、自然災害に対してどのような備えが必要なのだろうか」といった問いを立てて追究する。市町村役場、避難場所、消防署、病院などの防災にとって重要な施設の位置、集落の分布や規模、道路網や橋の位置などに留意して、区分したそれぞれの地域の自然及び社会的条件に合わせた避難計画や防災のための施策の在り方について考察する学習活動が考えられる。その際、既述のように、災害発生時に現地がどうなるか、どのように行動すればいいのかなどについて具体的に考えたり、予想される災害の頻度や規模を考慮して、取るべき対策について議論したりすることが考えられる。(p.65-66)
歴史総合	感染症を取り上げた場合には、例えば、教師が、伝染病感染者数などに関する統計や主題図、感染の拡大防止に向けた国際協力に関する資料などを提示し、20世紀の感染症被害が大規模となった理由や感染症の広がりに対する国際社会の対応など、生徒が歴史的な見方・考え方を働かせて資料から情報を読み取ることができるように指導を工夫する。生徒は、それらの情報を読み取ったりまとめたりしながら、感染症の拡大の背景と生活や社会の変容との関連性について考察する。(p.172)

3-3. 高等学校公民科における健康

高等学校公民科における健康に関する語等は、表3のように、公共、倫理、政治・経済のすべての科目にて表出されていた。

「健康」については、公共のなかで大項目B「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」内の、「主に政治に関わる事項」に掲載されている。ここでは持続可能な開発目標について言及があり、それと合わせて健康に言及がある。加えて、同一項目内の「主に経済に関わる事項」について、経済活動を活発に行うことに意義がある一方で、法令やルールの順守と同時に長時間労働による健康の阻害を記載している。また、倫理においては、大項目A「現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方」のなかにある「人間としての在り方生き方の自覚」の部分で記述がある。ここでは、精神の健康について記述があり、他教科との関連について配慮することを記している。また、倫理の指導上の留意事項として、ホームルーム活動が含まれる特別活動との関連があることにも言及している。

次いで、「医療」についてみると、公共では大項目B「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」内の、「主に経済に関わる事項」に記載があった。ここでは、社会保障制度の一つとして医療保険があることに言及し、その役割について触れることにしている。また、倫理では大項目B「現代の諸課題と倫理」のなかで、「自然や科学技術に関わる諸課題と倫理」のなかにある生命倫理の面で医療の進歩の関連性について言及がある。政治・経済では、大項目A「現代日本における政治・経済の諸課題」で「現代日本における政治・経済の諸課題の探究」の一つに公共での「医療」の扱いと同様に社会保障としての面の記述があるが、諸課題についてより詳細に言及している。また、大項目B「グローバル化する国際社会の諸課題」にある「グローバル化する国際社会の諸課題の探究」のなかで、医療の発展による新たな価値創造とそれに伴う諸問題・諸課題を考えさせることを挙げている。

そして「病」に着目すると、公共では大項目B「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」内の、「主に政治に関わる事項」において安全保障や国際協力の観点で病気について触れられている。

なお、「栄養」、「感染症」については見られなかった。

表3 新学習指導要領解説の高等学校公民科での健康に関する記述¹¹⁾(筆者作成)

	健 康
公共	<p>なお、「『国際貢献』については、国際連合における持続可能な開発のための取組についても扱うこと」(内容の取扱い)が必要であり、「誰一人取り残さない」との理念の下、自然環境や資源の有限性、貧困、イノベーションなどに関わる17のゴール(目標)、169のターゲットからなる国際連合における持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals。以下、SDGsと略す。)に触れながら、あらゆる人々が健康で活躍できるよう、教育の充実や飢餓の撲滅、全ての形態の暴力の大幅減少、子供の貧困対策などによって生存が脅かされている個々の人間の尊厳と平等を守り、その能力を生かすために平和で安全・安心な社会を実現していくことが、国際政治の安定や世界経済の発展につながることに理解できるようにする。(p.65)</p> <p>すなわち、第一に、市場経済においては、公正で自由な競争を促進し、企業が創意工夫を発揮し事業活動を活発化することで、消費者の利益が確保され社会的余剰が最大化すること、このため、市場における競争を維持・促進するための政府による適切な政策が必要になることを理解できるようにすること、第二に、政府は、公正かつ自由な経済活動が行われるよう、財産権を保護したり、商取引のルールを整備したりするなどしていること及び所得の再分配政策などによって国民福祉の向上を図っていることを理解できるようにすること、第三に、経済活動の意義は人間の生活を維持・向上させることにあり、経済活動がより活発に行われることで生活水準は高まるが、長時間労働で健康を害したり、公害などが発生して国民福祉が阻害されたりするなど個人の尊重という観点から懸念される問題が生じることもあることから、より活発な経済活動と個人の尊重を両立させることが必要であることを理解できるようにすることである。(p.67)</p>
倫理	<p>これら心理学の考え方の学習では、例えば、様々な人間の心の在り方について科学的に探究した各種の実験や観察、調査に基づく統計的な分析の結果を利用したり、対話や作文などを通して学習を深めたりすることも考えられる。その際、心理学の学説や各種の実験や観察の結果の紹介を知識として習得させる指導で終わることのないよう、現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方について思索を深めるための手掛かりとして学習することができるよう工夫する。また、他の教科等における精神の健康や適応、発達などに関わる学習との関連についても配慮することが必要である。(p.95)</p> <p>特別活動…との関連については、とりわけ、ホームルーム活動は内容の3項目のうち「(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」、「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」が特に「倫理」と関わりが深い。これらの内容の指導は、人間としての在り方生き方に関する教育において「倫理」とともに中核的役割を担っているのである。(p.118)</p>
	栄 養
	該当なし
	医 療
公共	<p>少子高齢社会における社会保障の充実・安定化については、疾病や失業、加齢など様々な原因により発生する経済的な不安やリスクを取り除くなどして生活の安定を図り、人間としての生活を保障する社会保障制度の意義や役割を理解できるようにするとともに、我が国の社会保障制度の現状と課題などを、医療、介護、年金などの保険制度において見られる諸課題を通して理解できるようにする。(p.69)</p>

倫理	<p>生命を取り扱う場合については、「生命科学や医療技術の発達を踏まえ、生命の誕生、老いや病、生と死の問題などを通して、生きることの意義について思索できるようにすること」(内容の取扱い)としている。</p> <p>その際、例えば、生命への人為的な操作や治療を超えた介入など、近年の生命科学や医療技術の発達に伴い、従来の死生観のみでは対処できない様々な問題が生じていることなどにも触れながら、老いや病、障害とともに生きる意義と社会の在り方といった視点から倫理的課題を見だし、探究する活動が考えられる。なお、これらの問題が、私たち一人一人の生命の尊さに関わる問題であるとともに、家族や地域をはじめとする人と人との関わりや、福祉や社会保障制度など社会との関わりが深い問題であることにも留意する必要がある。(p.114)</p>
政治・経済	<p>少子高齢社会における社会保障の充実・安定化については、社会保障制度の充実に伴い、社会保障の目的は、生活の最低限度の保障から広く国民に安定した生活を保障するものへと変化してきている。少子高齢化が進む日本では、労働力需給や経済成長など国民経済に大きな影響が出ており、また、生産年齢人口の減少や家族構成の変化などにより、公的医療保険や公的年金保険などの社会保険をはじめとする社会保障費の財政負担の増大も大きな問題となっている。</p> <p>その際、例えば、少子高齢社会における問題点を、個人の生活様式や就労形態の多様化、家族構成の変化、低所得や貧困とその連鎖、介護と医療を必要とする人の増加、女性や高齢者の安定的雇用などだけでなく、消費水準を平準化させる機能や長生きに伴うリスクを減少させる役割を果たしている社会保険に関して、世代間及び世代内の公平性を確保できる受益と負担の均衡のとれた制度の在り方について、また、子育て支援や教育費の支援と生活保障など、日本のこれからの充実した福祉社会の在り方について自分の考えを説明、論述できるようにすることが考えられる。さらに、社会保険の役割とともに、自助としての医療保険、生命保険、私的年金保険などの民間保険の役割なども調べ、広い視野から持続可能な社会保障の在り方について自分の考えを説明、論述できるようにすることも考えられる。(p.142)</p> <p>その際、例えば、環境や医療の分野などイノベーションによって新たに生まれる財やサービスの成長市場について具体的に調べたり、イノベーションが人々の働き方や社会生活をどのように変化させていくのかを調べたりして、イノベーションをより促進するための方策や、イノベーションによる社会の変化に対応した適切なルールや知的財産権の制度の在り方について自分の考えを説明、論述できるようにすることが考えられる。(p.156)</p>
	感染症
	該当なし
	病
公共	<p>我が国の安全保障と防衛については、日本国憲法の平和主義について理解を深めることができるようにするとともに、我が国の防衛に関する基本的な事柄にも触れながら、変化する国際情勢の中で、我が国の安全が世界の平和の維持といかに不可分に関連しているかについての理解を深めることができるようにする。その際、今世紀に入ってから国際情勢の変化や国際社会の動向を踏まえるとともに、様々なレベルでの国際協力や食料の安定確保など我が国の安全保障に向けての多角的な努力や、日米安全保障条約や我が国の防衛、国際社会の平和と安全の維持のために自衛隊が果たしている役割など我が国の防衛や国際社会の平和と安全に関する基本事項について、広い視野に立って理解できるようにする。また、従来の国家を中心とする安全保障では対処しきれない紛争、病気や貧困、環境破壊などによって生存が脅かされている個々の人間の生存や安全を守ろうとする考え方などの観点から取り扱うことも大切である。(p.64)</p> <p>少子高齢社会における社会保障の充実・安定化については、疾病や失業、加齢など様々な原因により発生する経済的な不安やリスクを取り除くなどして生活の安定を図り、人間としての生活を保障する社会保障制度の意義や役割を理解できるようにするとともに、我が国の社会保障制度の現状と課題などを、医療、介護、年金などの保険制度において見られる諸課題を通して理解できるようにする。(p.69)</p>
倫理	<p>生命を取り扱う場合については、「生命科学や医療技術の発達を踏まえ、生命の誕生、老いや病、生と死の問題などを通して、生きることの意義について思索できるようにすること」(内容の取扱い)としている。</p> <p>その際、例えば、生命への人為的な操作や治療を超えた介入など、近年の生命科学や医療技術の発達に伴い、従来の死生観のみでは対処できない様々な問題が生じていることなどにも触れながら、老いや病、障害とともに生きる意義と社会の在り方といった視点から倫理的課題を見だし、探究する活動が考えられる。なお、これらの問題が、私たち一人一人の生命の尊さに関わる問題であるとともに、家族や地域をはじめとする人と人との関わりや、福祉や社会保障制度など社会との関わりが深い問題であることにも留意する必要がある。(p.114)</p>

4. 旧学習指導要領における健康

4-1. 中学校社会科における健康

中学校社会科における健康に関する語等については、「健康」の語が新学習指導要領と同様に公民的分野のなかで表されていた。大項目(2)「私たちと経済」のなかにある、イ「国民の生活と政府の役割」に含まれ、概ね新学習指導要領に文言が引き継がれている。

なお、「栄養」、「医療」、「感染症」、「病」についての語等については見られなかった。

表4 旧学習指導要領解説の中学校社会科での健康に関する記述¹²⁾(筆者作成)

	健 康
公民的分野	「公害の防止など環境の保全」については、地理的分野及び歴史的分野の学習との関連を考慮しながら、個人の生活や産業の発展などに伴う公害など環境汚染や自然破壊の問題について理解させることを意味している。そして、現在及び将来の国民の健康で文化的な生活の確保に寄与するとともに人類の福祉に貢献するという視点に立って、環境を保全し、積極的に人間環境の改善を図るようにすることの重要性について理解させること、さらに、これらの問題の解決を図るためには、環境保全対策が国や地方公共団体の重要な課題であり、これまで様々な取組がなされてきたこと、我々の生活の在り方を見直し個人や企業が責任ある行動をとるようにする必要があることに気付かせることを意味している。(p.129)
	栄 養
	該当なし
	医 療
	該当なし
	感染症
	該当なし
	病
	該当なし

4-2. 高等学校地理歴史科における健康

高等学校地理歴史科における健康に関する語等については、「医療」の語が地理Bのなかで、「病」が世界史Bのなかで見られていた。

「医療」については、地理Bで大項目(1)「様々な地図と地理的技能」のなかに、地域調査に関する内容に出てくるものである。地域的課題を見る際に、医療の様相も一例に挙がるとして記載されていた。

「病」については、世界史Bで大項目(3)「諸地域の交流と再編」のなかにある、ヨーロッパ世界の形成に関わる内容として、その資料活用の例に黒死病を挙げていた。時代が下るにつれて活発になった交流の正の面と負の面を両面からみるにあたって、資料活用の技能をも合わせて養うことを目指していた。

なお、「健康」、「栄養」、「感染症」そのものの語等については見られなかった。

表5 旧学習指導要領解説の高等学校地理歴史科での健康に関する記述¹³⁾(筆者作成)

	健 康
	該当なし
	栄 養
	該当なし
	医 療
地理B	「生活圏の地域的特色をとらえる地理的技能を身に付けさせる」とは、この中項目で身に付けさせる地理的技能の内容を示したものである。生活圏という「直接的に調査できる地域」の地域的特色をとらえるためには、様々な地理的技能を適切に選択したり組み合わせたりして活用することが必要であり、調査の立案、実施、まとめという方法をとる。したがって、「その方法が身に付くよう工夫すること」(内容の取扱い)とあるように、個別の地理的技能の習得、活用だけではなく、地域調査の方法も身に付くように、地域調査全体の内容と学習過程を工夫することが大切である。なお、ここでの「生活圏の地域的特色」とは、「直接的に調査できる地域」の課題も含んでおり、課題は、当該地域の人口の推移や構造、社会福祉や医療の実態、災害とその対策、環境の保全などの面から調査結果を考察することで浮かび上がってくると想定される。(p.102)
	感染症
	該当なし
	病
世界史B	「イ ヨーロッパ世界の形成と展開」では、「中世ヨーロッパの交易活動と黒死病の流行」という主題を設定し、各都市の黒死病の流行年と、人・ものなどの移動ルートを地図上に記入させたり、作成した地図を活用してそのことを説明させたりするなどの活動が考えられる。「ウ 内陸アジアの動向と諸地域世界」では、「ユーラシアの諸地域世界を旅した人々」という主題を設定し、マルコ=ポーロ、イブン=バトゥータなどの旅行者の記録から分かる当時の諸地域世界の様子とそのルートを地図上に記入するとともに、海域におけるモンスーン交易と内陸における東西南北のネットワークの結合に伴う諸地域世界の交易ルートや商人の移動範囲、住民の生活の様子を発表させたり、作成した地図を活用してそのことを説明させたりするなどの活動が考えられる。(p.37)

4-3. 高等学校公民科における健康

高等学校公民科における健康に関する語等は、表6のように、現代社会、倫理、政治・経済のすべての科目にて表出されていた。

まず、「健康」については倫理のなかに大項目(3)「現代と倫理」にある「現代の諸課題と倫理」にて示されていた。ここでは、国際平和が生活と密接に関わりがあることを理解することを目指している。また、新学習指導要領に引き継がれている事項として、ホームルーム活動との関連性を記載した箇所もあった。

次に、「医療」では現代社会にて大項目(2)「現代社会と人間としての在り方生き方」のなかで、「現代の経済社会と経済活動の在り方」に内容が含まれ、社会保障としての医療について考えさせるものであった。また、倫理には大項目(3)「現代と倫理」のなかで、「現代の諸課題と倫理」の一つとして、生命倫理の観点から医療について言及があった。幅広い観点から見ることや人間に限らず様々な生態系とともに考えられるようにとしていた。そして、政治・経済では大項目(3)「現代社会の諸課題」のなかにある「現代日本の政治や経済の諸課題」の一つに挙げられていた。ここでは、現代社会と同様に社会保障と同様な内容が含まれているが、社会保障制度の

軌跡をたどりながら理解することを求めている。しかし、核となるものは少子高齢社会のため、その現状を見る一つの観点として医療を挙げていた。

そして、「病」の語について見てみると、現代社会では「医療」と同様の箇所で見られており、ここでは疾病の語が用いられていた。また、大項目(2)「現代社会と人間としての在り方生き方」のなかにある、「国際社会の動向と日本の果たすべき役割」のなかで病気の語が用いられていた。安全保障の観点から病気を例にする一方で、日本が貢献してゆく方法を考える内容になっていた。また、倫理では、大項目(3)「現代と倫理」のなかで、「現代に生きる人間の倫理」に「病」の語が現れ、病の意味について思索するように書かれていた。加えて、「医療」で上記に示した箇所でも「病」の語が現れていた。

なお、「栄養」、「感染症」そのものの語については用いられていなかった。

表6 旧学習指導要領解説の高等学校公民科での健康に関する記述¹⁴⁾(筆者作成)

	健 康
倫理	<p>「国際平和と人類の福祉」については、今日私たちが抱える問題が、例えば環境や資源の問題、食料や健康にかかわる問題などに見るように、一地域や一国内にとどまることのできない面が多いことの理解に立って、人類全体の福祉と国際平和の重要性を理解させ、自分たちにできることについて考えさせて、これに貢献する意欲を高め、積極的に参加する態度を養う。(p.36)</p> <p>特別活動、とりわけ、ホームルーム活動は内容の3項目のうち「(2) 適応と成長及び健康安全」、「(3) 学業と進路」が特に「倫理」とかかわりが深い。これらの内容の指導は、人間としての在り方生き方に関する教育において「倫理」とともに中核的役割を担っているのである。(p.39)</p>
	栄 養
	該当なし
	医 療
現代社会	<p>「社会保障」については、疾病や出産、障害、加齢など様々な原因により発生する経済的な不安を取り除くなどして生活の安定を図り、人間として生活が保障される社会保障制度の意義や役割を理解させるとともに、現状と課題などを、医療、介護、年金などの保険制度においてみられる諸課題を通して理解させる。またその際、少子高齢化の進行や、財政との関連、保険料の負担などとの関係について考察させる。(p.16)</p>
倫理	<p>「生命」については、近年の生命科学や医療技術の発達に伴い、従来の生命観のみでは対処できない様々な問題が生じてきていることなどにも触れながら、生命の誕生、老いや病、生と死の問題等を通して、生きることの意義について考えさせる。その際、これらの問題が倫理・宗教・哲学・科学・法律・経済・文化など様々な領域に広くかかわる問題であるとともに、家族や地域をはじめとする人と人とのかかわり、福祉や社会保障制度など社会とのかかわりの中にあることに気付かせる。老いや病や障害とともに生きる意義と社会の在り方について考えさせることも大切である。また、人間の生命が自然の生態系の中で、他の生命との相互依存関係において維持されていることを認識させ、人間中心の生命観にとどまることのないようにし、他のすべての生命との調和的な共存関係の大切さを理解させる。(p.35)</p>
政治・経済	<p>「少子高齢社会と社会保障」については、日本が少子高齢社会を迎えて、労働力需給や経済成長など国民経済に大きな影響が出ていること、医療や年金など社会保障費の財政負担の増大も大きな問題となっていることなどを、日本の社会保障制度の歩みや特色などに触れながら理解させる。(p.54)</p> <p>例えば、少子高齢社会に伴う問題点を家族、介護、雇用、年金、医療など様々な面から調べさせ、その解決のための方法について探究させることが考えられる。また、少子高齢化が進む諸外国の現状と課題などについて調べさせ、日本のこれからの福祉の在り方について探究させることなども考えられる。(p.54)</p>

	感染症
	該当なし
	病
現代社会	<p>「社会保障」については、疾病や出産、障害、加齢など様々な原因により発生する経済的な不安を取り除くなどして生活の安定を図り、人間として生活が保障される社会保障制度の意義や役割を理解させるとともに、現状と課題などを、医療、介護、年金などの保険制度においてみられる諸課題を通して理解させる。またその際、少子高齢化の進行や、財政との関連、保険料の負担などとの関係について考察させる。(p.16)</p> <p>「我が国の安全保障と防衛及び国際貢献」については、大項目(2)の「イ 現代の民主政治と政治参加の意義」の中の「平和主義と我が国の安全」と関連させ、広い視野から日本の安全保障の在り方と防衛及び国際貢献について考えさせる。その際、冷戦終結後の国際情勢の変化や国際社会の動向を踏まえるとともに、様々なレベルでの国際協力や食料などの安定確保など我が国の安全保障に向けての多角的な努力について、また、日米安全保障条約や我が国の防衛や国際社会の平和と安全の維持のために自衛隊が果たしている役割など我が国の防衛や国際社会の平和と安全に関する基本的事項について、広い視野に立って考察させる。なお、考察に当たっては、従来の国家を中心とする安全保障では対処しきれない内戦、病気や貧困、環境破壊などによって生存が脅かされている個々の人間の生存や安全を守ろうとする考え方などに着目するとともに、我が国が国際社会の平和と安全にどのような役割を果たし貢献し得るかという観点から考察させることが大切である。(p.17)</p>
倫理	<p>「人間の尊厳と生命への畏敬」については、先哲が人間をどのようにとらえ、人間の尊厳についてどこに根拠を求め、どのように考えたかを手掛かりとして人間の尊厳について理解を深めさせるとともに人間の生と死、老いや病の意味など深遠な生命について思索を深めさせ、生命への畏敬が現代における重要な倫理的課題となっていることに気付かせる。そこから生命はかけがえのないもの、他のものとは代替できないものであることを深く認識させ、生命を尊ぶ心を持ち、人間の尊厳を大切に生き、また、人間の力を超えるものに対する畏敬の念をもつことができるようにする。人間の尊厳の根拠を問うことや生命の深遠さに目を向けることにより、人間の尊厳や生命の大切さを単に自明のこととして考えるにとどまらず、より深い自覚に立ってこれらを大切にすることを重要である。(p.33)</p> <p>「生命」については、近年の生命科学や医療技術の発達に伴い、従来の生命観のみでは対処できない様々な問題が生じてきていることなどにも触れながら、生命の誕生、老いや病、生と死の問題等を通して、生きることの意義について考えさせる。その際、これらの問題が倫理・宗教・哲学・科学・法律・経済・文化など様々な領域に広がっていく問題であるとともに、家族や地域をはじめとする人と人のかかわり、福祉や社会保障制度など社会とのかかわりの中にあることに気付かせる。老いや病や障害とともに生きる意義と社会の在り方について考えさせることも大切である。また、人間の生命が自然の生態系の中で、他の生命との相互依存関係において維持されていることを認識させ、人間中心の生命観にとどまることのないようにし、他のすべての生命との調和的な共存関係の大切さを理解させる。(p.35)</p>

5. 考察

新学習指導要領解説における、健康に関する扱いの様相をまとめると表7の通りである。地理的分野や歴史的分野、地理歴史科より、公民的分野や公民科が多くを占めている。しかし、地理的分野や歴史的分野、地理歴史科においても全く触れられていなかったのではなく、むしろ公民的分野・公民科には無かった栄養や感染症の内容を含むものであった。

表7 新学習指導要領解説による健康(筆者作成)

		健康	栄養	医療	感染症	病
中学校 社会	地理的分野					
	歴史的分野					
	公民的分野	○		○		
高等学校 地理歴史	地理総合		○			
	地理探究				○	
	歴史総合				○	
	日本史探究					
	世界史探究			○		
高等学校 公民	公共	○		○		○
	倫理	○		○		
	政治・経済			○		

高等学校の場合、必修である地理総合、歴史総合、公共の3科目を通して、「健康」、「栄養」、「医療」、「感染症」、「病」について触れられていたことになり、今回取り上げた健康を概ね網羅していると考えられる。一方で、旧学習指導要領解説においては、以下の表のように健康に関する語等が見られていた。旧学習指導要領解説では、中学校でも高等学校でも栄養や感染症に関して言及がなかった。また、科目ごとに見てみると、中学校の地理的分野や歴史的分野では言及がなく、また高等学校でも地理歴史に関する授業での健康に関する扱いは少なく、中学校でも高等学校でも公民での扱いが中心になっていた。

表8 旧学習指導要領解説による健康(筆者作成)

		健康	栄養	医療	感染症	病
中学校 社会	地理的分野					
	歴史的分野					
	公民的分野	○				
高等学校 地理歴史	世界史A					
	世界史B					○
	日本史A					
	日本史B					
	地理A					
	地理B			○		
高等学校 公民	現代社会			○		○
	倫理	○		○		○
	政治・経済			○		

双方の学習指導要領解説を比較してみると、中学校社会では、公民的分野で「医療」の語が用いられるようになった。少子高齢社会の進展に伴い、社会保障費の増大の観点から医療制度を

扱っている。しかし、生命倫理の観点は高等学校公民科まで待つことになる。

そして、高等学校地理歴史科では、地理総合において「栄養」が表されていた。例示ではあるものの、深刻化する栄養にまつわる国際格差への注目を促している。これには、フードロスなどの食品にまつわる語が浸透してきたことも要因と考えられる。また、「感染症」についても語が新たに表れ、地理総合や歴史総合で登場した。旧学習指導要領解説でも、「病」の点から世界史Bで黒死病が扱われていたものの、新学習指導要領では地球温暖化に伴う諸問題の一つとして熱帯性の感染症、近現代を考察するうえでの観点としての感染症があることを示している。教科書上のことは過去のことではなく、現在に繋がる問題として捉えさせることを目指していると言える。加えて、「医療」が地理Bで登場していたものが、新学習指導要領下では世界史探究で登場している。地理Bでは、地域調査の内容として医療機関を用いていた。世界史探究では、医療を含む様々なテクノロジーの発展は目まぐるしいものであったが、様々な問題を孕みながら現代に至ったことから、それに伴う課題を考えさせることを目指している。

高等学校公民科では、政治・経済においても「医療」が登場している。イノベーションの深化が進んだことで医療分野での市場規模が広がっていることのみならず、付帯して考慮しなくてはならないことも合わせて考えられるようにすることとしている。政治・経済ではありながら、倫理の面も併せ持っている内容であると言える。

また、新旧のどちらにおいても、中学校の地理的分野、歴史的分野、高等学校の日本史においては、対象とした健康に関する語等について見られなかった。また、旧学習指導要領での高等学校で必修科目は、地理歴史科で世界史Aもしくは世界史B、公民科で現代社会もしくは倫理、政治・経済であった。必修科目と本稿で取り上げた語等について比較すると、健康に関して網羅していないことになる。しかし、それは健康について重視していないということではなく、必要に応じて教科用図書などで健康について取り上げているであろう。

さて、ここで社会科、地理歴史科、公民科の目標を確認しておく。社会科の目標は、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」⁹⁾を培うことである。地理歴史科のそれは、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力」¹⁰⁾を養うことである。また、公民科では「社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力」¹¹⁾の育成が、目指されている。社会科、地理歴史科、公民科は、人々の生活や社会と密接にかかわる役割を担う教科に該当する。社会の有為な形成者になるためには、健康で

あることや健康な人々が多い社会の形成を目指していることが肝要である。各科目の目標と新旧双方の学習指導要領解説の健康の関係を見るに、過去から現在までの国内外の様々な情勢を学ぶとともに、健康について見識を深めることを目指す内容となっている。

おわりに

本稿は、社会科・地理歴史科・公民科の学習指導要領解説における健康の扱いについて取り上げてきた結果、これらの教科においても健康教育の一部を担っていることが明らかとなった。和田は、「保健教育の内容は他の関連教科においても扱われており、身体の構造や機能に関わる内容は生物科、食生活と健康に関わる内容は家庭科、社会と環境に関わる内容は社会科など多岐に及んでいる」¹⁵⁾と言及しており、健康教育について社会科や地理歴史科、公民科に一定の役割を期待している。社会科、地理歴史科、公民科の授業を通して健康について知識を身につけ、家族形態や生活様式が変化し続けるなかでも、健康な生活を送ることができるになれば、教育基本法や新学習指導要領の理念に適うものとなる。

さて、本稿の今後の課題としては、健康そのものの定義や健康に関する語は他にも多様にあり、網羅的に取り上げてきたものではないため、この点については更なる追究を要することになる。また、小学校社会科での健康の扱いについても同様に着目することを要する。合わせて、小学校社会科では、より身近なテーマで健康と社会について扱われるものと推定されることから、この点についても調査が求められる。

参考文献

- 1) 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の 学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」, 2016年、
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf, 2023年9月29日最終アクセス。
- 2) 法務省法務総合研究所編『令和4年版 犯罪白書』, 2022年、
<https://www.moj.go.jp/content/001387336.pdf>, 2023年9月29日最終アクセス。
- 3) 首都大学東京子ども・若者貧困研究センター「東京都受託事業『子供の生活実態調査』詳細分析報告書」, 2018年、
<https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/joho/soshiki/syoushi/syoushi/oshirase/jittaityousabunseki.files/zentaiban.pdf>, 2023年9月29日最終アクセス。
- 4) 文部科学省国立教育政策研究所『令和3年度全国学力・学習状況調査 質問紙調査報告書』, 2021年、
<https://www.nier.go.jp/21chousakekkahoukoku/report/data/21qn.pdf>, 2023年9月29日最終アクセス。
- 5) 文部科学省総合教育政策局調査企画課「令和3年度学校保健統計(確報値)の公表について」,
https://www.mext.go.jp/content/20221125-mxt_chousa01-000023558.pdf, 2022年、2023年9月29日最終アクセス。

- 6) 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)』、2018年、
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_03.pdf、2023年 9 月29日 最終
アクセス。
- 7) 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)』、2017年、
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_02.pdf、2023年 9 月29日 最終
アクセス。
- 8) 國原幸一朗「中学校社会科における新型コロナウイルス感染症の教材化ー昭和22年度学習指導要領
(Ⅱ)の単元6を手がかりにー」、『名古屋学院大学論叢 社会科学篇』、第57巻第4号、p.115-138、
2021年。
- 9) 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』、2017年、
[https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/
03/18/1387018_003.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387018_003.pdf)、2023年 9 月29日最終アクセス。
- 10) 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 地理歴史編』、2018年、
https://www.mext.go.jp/content/20220802-mxt_kyoiku02-100002620_03.pdf、2023年 9 月29日 最終
アクセス。
- 11) 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 公民編』、2018年、
https://www.mext.go.jp/content/20211102-mxt_kyoiku02-100002620_04.pdf、2023年 9 月29日 最終
アクセス。
- 12) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』、平成20年7月、平成26年1月一部改訂、
[https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/
2014/10/01/1234912_003.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2014/10/01/1234912_003.pdf)、2023年 9 月29日最終アクセス。
- 13) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』、平成21年12月、平成26年1月一部改訂、
[https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2014/
10/01/1282000_3.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2014/10/01/1282000_3.pdf)、2023年 9 月29日最終アクセス。
- 14) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』、平成21年12月、平成26年1月一部改訂、
[https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2014/
10/01/1282000_4.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2014/10/01/1282000_4.pdf)、2023年 9 月29日最終アクセス。
- 15) 和田雅史「学校保健学における領域と構造に関する研究」、『聖学院大学論叢』、第30巻第1号、pp.1-
12、2017年。

注

・表1～6内にある(p.○○)は各指導要領解説でのページ数を示す。